

平成 28 年度岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会
会員施設現況調査結果

平成 30 年 2 月

岩手県社会福祉協議会

岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	
2	調査設計	
3	報告書の見方	
II	調査結果	
1	児童館・放課後児童クラブの基本状況	2
(1)	施設の所在地（ブロック圏域）	
(2)	登録児童について	
(3)	利用者からの費用徴収について	
(4)	付帯設備について	
(5)	ボランティアについて	
(6)	運営委員会について	
2	リスクマネジメントについて	9
(1)	実施しているマニュアル策定について	
(2)	防災・防犯訓練について	
3	災害や感染症対策等による小学校休校時の対応について	10
(1)	災害（地震・台風等）対策等による小学校休校時の対応について	
(2)	感染症（インフルエンザ等）対策等による小学校休校時の対応について	
4	活動していく上で、知りたい情報、問題点や要望	11
5	家庭（保護者）・学校・地域・関係機関との連携・取組状況について	13
(1)	家庭（保護者）との連携・取組状況について	
(2)	学校との連携・取組状況について	
(3)	地域や関係機関との連携・取組状況について	
(4)	今後、取り組んでいこうとしていることについて	
(5)	要保護児童対策地域協議会委員について	
III	資料編（調査票）	22

平成 28 年度岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会 会員施設現況調査結果

I 調査概要

1 調査の目的

会員施設の運営状況等について情報を共有するための現況を把握するとともに、今後の児童健全育成活動に係る事業の推進に役立てることを目的として行う。

2 調査設計

(1) 調査地域 岩手県全域

(2) 調査対象 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会の会員の
内、大型児童館を除く 91 施設

(3) 回収数

運営形態	回答数	割合	施設の機能
健全育成型（児童館単独運営）	27	30.0%	児童の健全育成に関する総合的な機能を果たすもの
児童健全混合型	36	40.0%	健全育成型児童館が放課後児童クラブを併せて運営するもの
幼児保育型	13	14.4%	保育所とほぼ同じ機能を持つもの
健全育成・幼児保育混合型	10	11.1%	健全育成型と幼児保育型の機能の両方を併せ持つもの
放課後児童クラブ	3	3.3%	
その他	1	1.1%	
合計	90 施設	100.0%	

※残 1 施設については、平成 28 年度内に閉館したため回答なし

(4) 調査時期 平成 29 年 2 月 21 日（火）～ 3 月 7 日（火）

3 報告書の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は、百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。

(2) 利用状況は、平成 28 年 7 月から 9 月までの各施設の 1 日あたりの平均利用人数である。

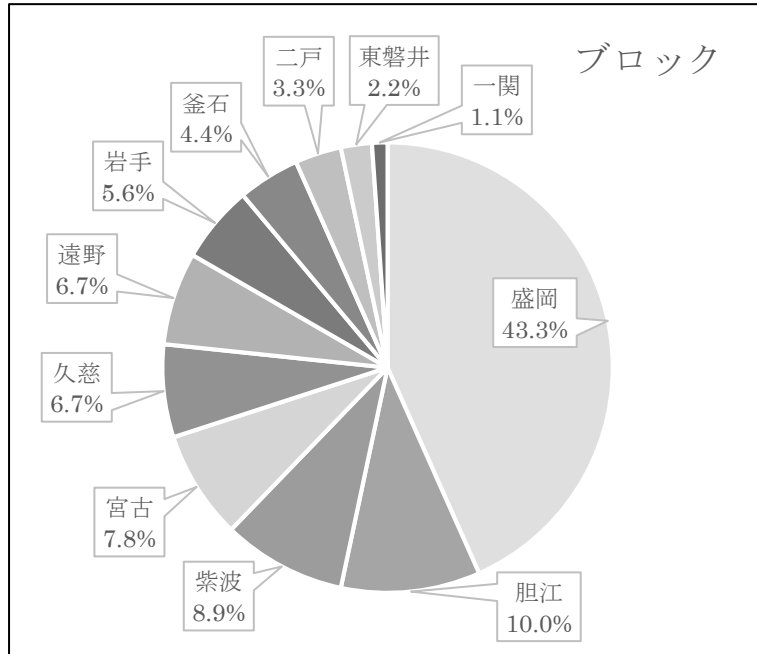
(3) 自由記述の回答を求めた設問では、箇条書きによる複数回答や、複数の要素を持つ記述による回答を認めているため、回答数の合計が全施設数を超えることがある。

(4) その他、個別に参照事項がある場合は、本報告の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 調査結果

1 児童館・放課後児童クラブの基本状況

(1) 施設の所在地（ブロック圏域）



会員施設の所在地としては、「盛岡ブロック」が 43.3%、「胆江ブロック」が 10.0%、「紫波ブロック」が 8.9%、「宮古ブロック」が 7.8%、「久慈ブロック」「遠野ブロック」が 6.7%、「岩手ブロック」が 5.6%、その他のブロックは 5%以下となり、盛岡ブロックに大幅に偏りが見られる。

(2) 登録児童について

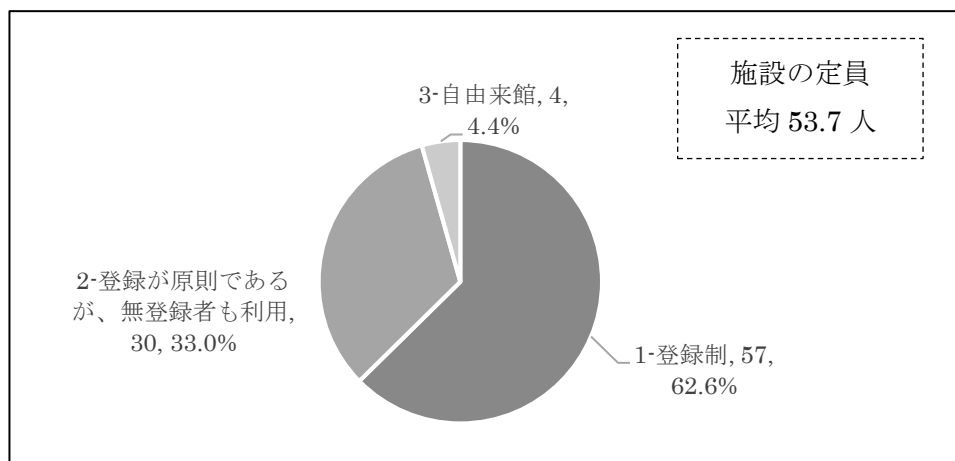
(A) 対象年齢

年齢	学年	回答数
0 歳～18 歳	-	4
2 歳～12 歳	～6 年生	2
2.5 歳～12 歳	～6 年生	2
3 歳～5 歳	幼児、年少～年長	5
3 歳～6 歳	-	9
3 歳～12 歳	～6 年生	4
6 歳～8 歳	1 年生～3 年生	2
6 歳～9 歳	1 年生～3 年生	1
6 歳～11 歳	1 年生～6 年生	2

年齢	学年	回答数
6 歳～12 歳	1 年生～6 年生	34
6・7 歳～12 歳	1 年生～6 年生	1
7 歳～10 歳	1 年生～3 年生	2
7 歳～12 歳	1 年生～6 年生	14
7 歳～9 歳	1 年生～3 年生	5
7 歳～18 歳	1 年生～高 3 生	1
-	1 年生～6 年生	2
合計		90

登録児童については、学年を「1 年生～6 年生」と回答した施設が 53 とあり、全体の 58.9%を占める。その内訳としては、児童健全混合型施設が 50.9%、健全育成型（児童館単独経営）が 37.7%、放課後児童クラブが 3.8%、健全育成・幼児保育混合型が 3.8%、その他が 1.9%である。

(B) -1 利用形態について



利用形態については、「登録制」が最も多く、全体の 53.7%を占める。次に「登録が原則であるが、無登録者も利用」が多く、全体の 33%を占める。

(B) -2 登録児童の内訳について

① 現在の登録者数 平均 83 人

② 登録者の内訳

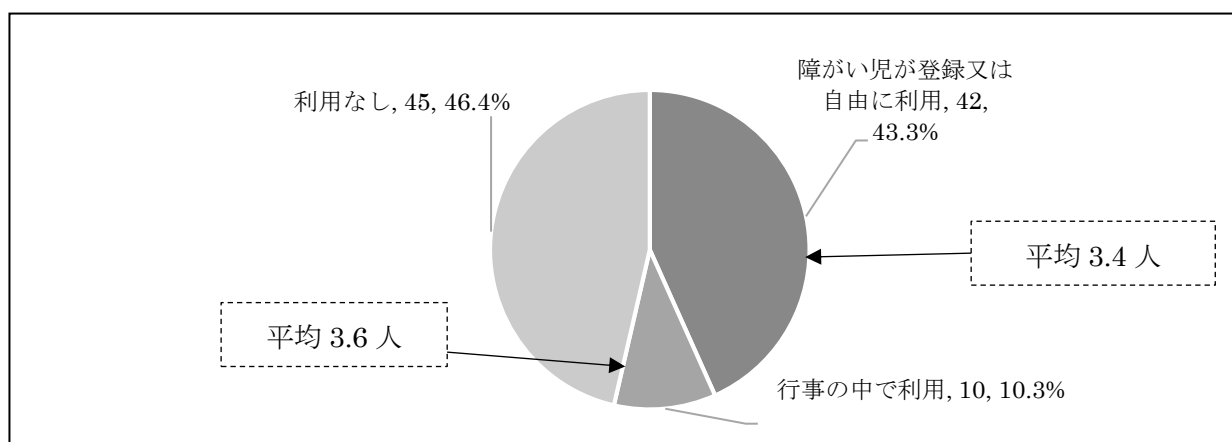
登録者の内訳	乳児	幼児	小学生 1年～ 2年生	小学生 1年～ 3年生	小学生 1年～ 4年生	小学生 1年～ 5年生	小学生 1年～ 6年生	中学生	その他
回答施設数	3	31	1	8	2	6	55	1	0
平均登録者数(人)	2	12.8	1	75.4	76	39.8	106	5	0

(C) 1日の平均利用者数について（平成28年度7月～9月の平均）

利用者の内訳	乳児	幼児	小学生 1年～ 3年生	小学生 1年～ 4年生	小学生 1年～ 5年生	小学生 1年～ 6年生	中学生	その他 (高校生/保護者/ 無登録児童等)
回答施設数	4	48	6	2	5	59	23	25
平均利用者数(人)	1	6.4	44.7	68	26	38.9	1	10.3

登録児童の内訳及び1日の平均利用者数については、上記 (B) -2 ② 及び (C) の表のとおりである。

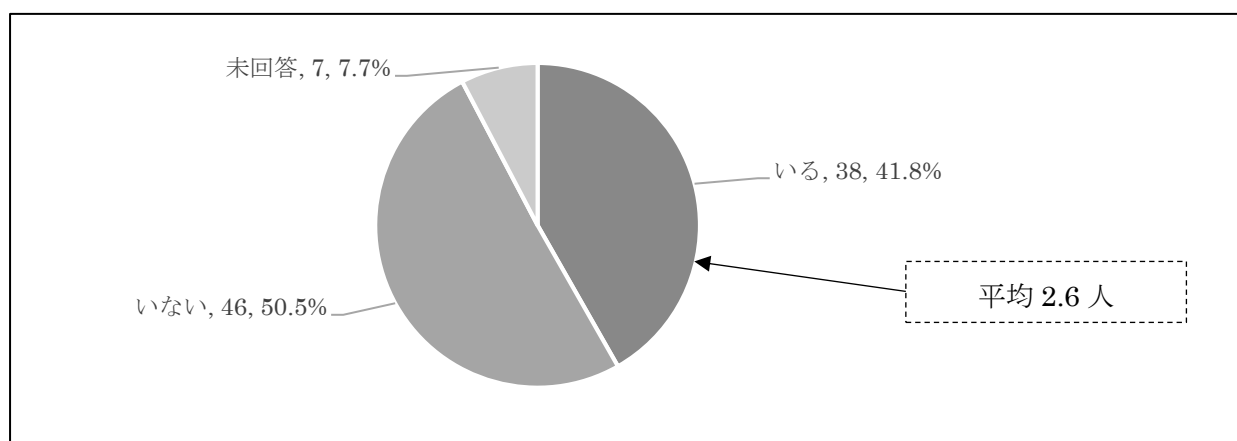
(D) 障がい児（発達・知的・身体等の診断・手帳所持）の利用について



障がい児及び特別な配慮を要する子どもの施設利用については、「利用なし」が 46.4%と最も多くを占め、次いで「障がい児が登録又は自由に利用」の割合が多く、43.3%となっている。

一方、障がい児を除く「特別な配慮を要する子ども」の利用割合については、下記 (E) のグラフのとおりである。

(E) 特別な配慮を要する子どもについて（発達・知的・身体等の診断・手帳所持の障がい児以外）



「特別な配慮を要する子ども」の利用状況については、「いない」が 50.5%、「いる」が 41.8%となっている。

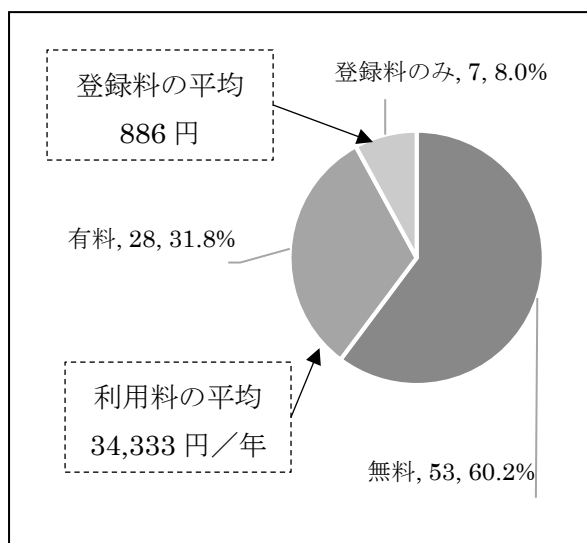
「いる」と回答した施設における平均利用人数は 2.6 人であった。それらの施設において、具体的な状況を自由記述回答で求めた結果、発達障がい（ADHD）の子ども、又は発達障がいの診断は出ていないものの、疑いのある子ども、問題行動のある子どもという回答が多くあった。

その他、虐待のための経過措置等、要保護対象児童という回答も複数見られている。

特別な配慮を要する子どもについて（具体的に）	回答数
発達障がい（ADHD）、薬服用	7
発達障がいの疑いがある（親が受け入れようとしない等のため未受診）	6
問題行動（言動が乱暴、物事が自分の思い通りにならないと、そばにいる子に暴言をはく、暴力をふるう等）	4
感情の起伏が激しい。対人（友達）とのトラブルや、突然大声を出す等	3
要保護対象児童（虐待のための経過措置、ネグレクト、母子避難等）	3
友達との関わりがうまくできない。（ルールを守れない、落ち着きがない）	2
食物アレルギー	2
多動	2
気になる児童数名あり	1
てんかん	1
興奮しやすい	1
話が聞けない、左目失明	1
不安神経症の疑い	1
言葉不明瞭、不注意	1
自閉症の疑い・水頭症	1
心房中隔欠損、肺動脈弁狭窄	1
特別ではないが配慮を要する子がいる	1

(3) 利用者からの費用徴収について

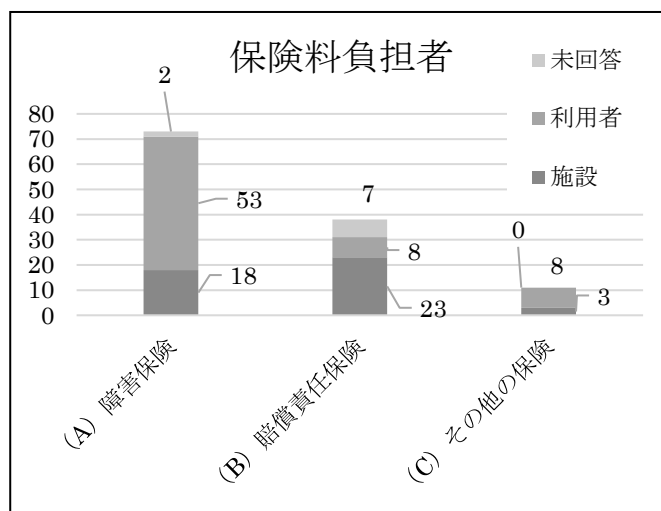
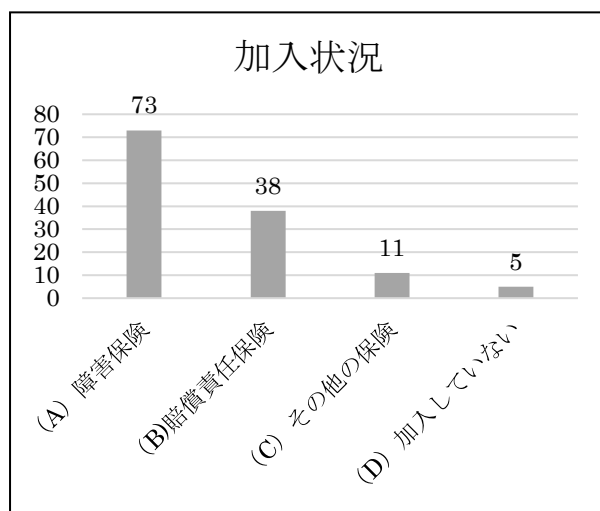
(A) 利用料・登録料（年間）



(B) その他の料金

その他の料金の詳細	回答数
保護者会費（母親クラブ、父母会）	24
おやつ代	13
教材費	8
行事参加費	5
延長利用料	2
保険料	2
行事経費等	1
月刊絵本代	1
母親クラブ加入料金	1
補食費	1

(C) 児童館利用者用保険（共済）の加入状況について

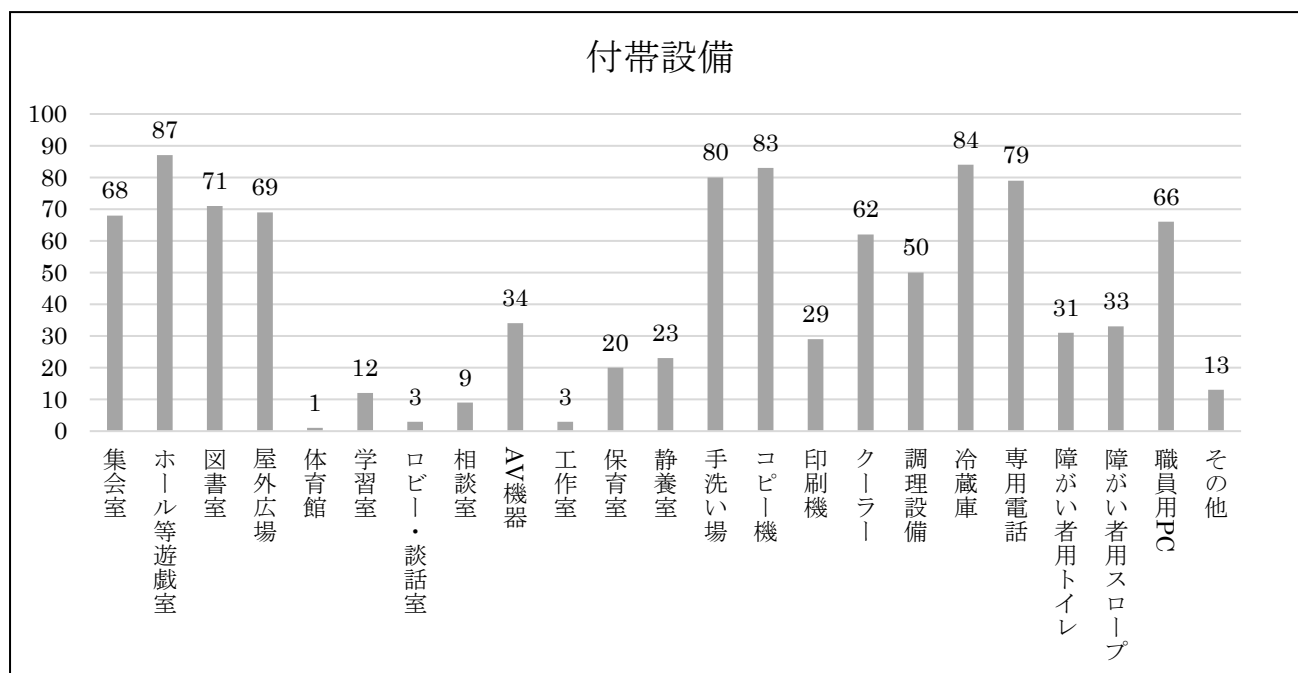


児童館利用者保険の加入状況及び各保険の料金負担者については、上グラフのとおりとなる。

グラフから、障害保険については主に利用者が、賠償責任保険については施設が費用を負担する割合が高いことが分かる。

	保険の名称	利用料平均 (年／人)
傷害 保険	スポーツ安全保険、児童安全共済、損保ジャパン日本興亜、児童健全育成推進財団児童安全共済制度、児童クラブ共済、JA 共済（普通傷害共済）、児童厚生員共済、日新火災海上、みらい保険	890 円
賠償 責任 保険	スポーツ安全保険、施設賠償責任保険、児童安全共済、損保ジャパン日本興亜、児童健全育成推進財団児童安全共済制度、幼稚園・保育園賠償責任保険、あいおいニッセイ同和損害保険、児童クラブ共済、総合保障	800 円
その他	スポーツ安全保険、児童館安全共済、児童館共済	668 円

(4) 付帯設備について（該当するものを複数選択。兼用している場合は、主な使用用途で選択）



・その他の設備…事務用 PC・プリンター、教材室、事務室、足洗場、洗濯機、倉庫、ストーブ 等

付帯設備について、最も回答数の多いものは「ホール等遊戯室」であり、全 90 施設中 87 施設に該当している。次いで、「冷蔵庫」「コピー機」「手洗い場」等が多く選択されている。

一方、回答数の少ない設備としては、「体育館」「ロビー・談話室」「工作室」等が挙げられる。

(5) ボランティアについて（平成 27 年度の延べ人数）

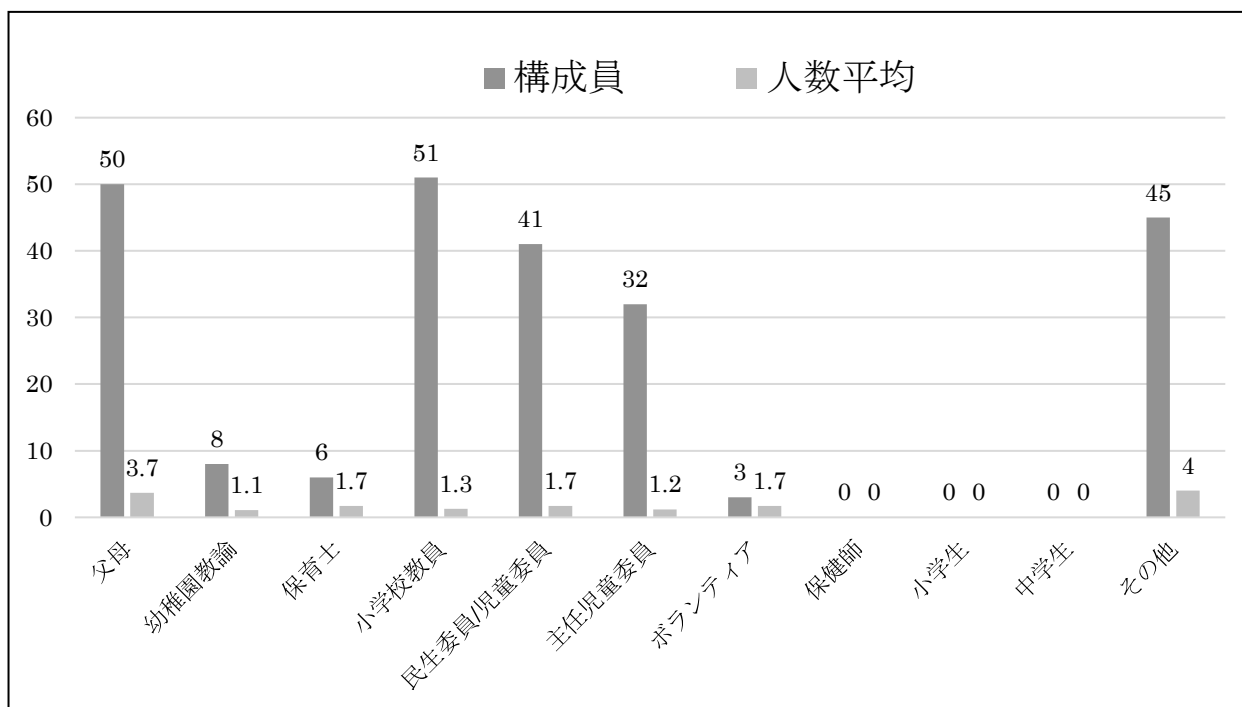
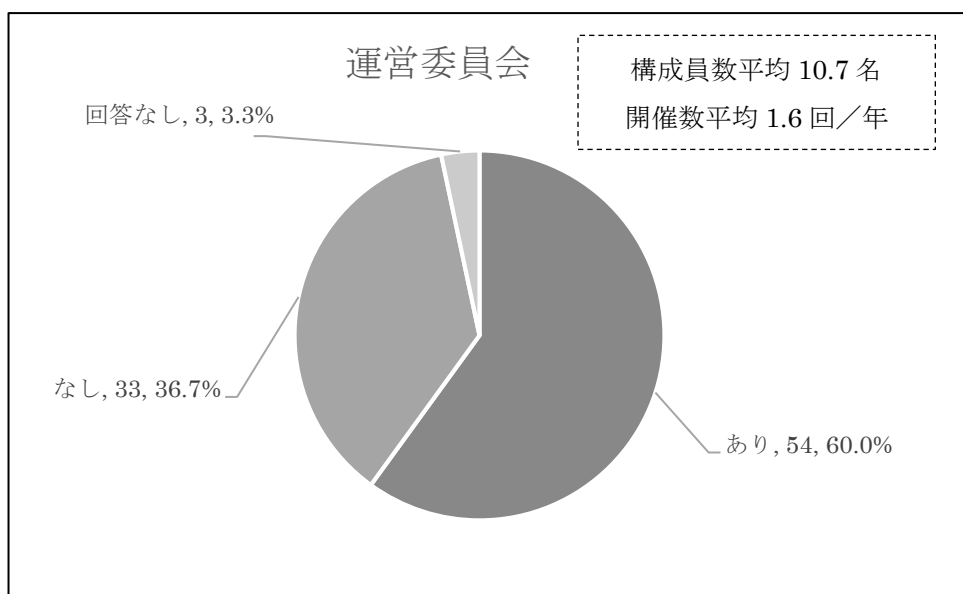
（単位：人）

	高校生	短・大学生	父母	高齢者	その他	その他（詳細）
回答数	7	13	33	20	28	小・中学生、地域住民、一般、お茶の先生、更生保護女性の会、子育てサポート、山岳ガイド、女性団体、児童民生委員、よみきかせ、図書ボランティア 等
平均	11.4	16.8	39.2	26.2	21.5	
最大数	39	54	105	80	200	
最少数	1	1	2	1	1	

平成 27 年度のボランティア人数について、最も回答数が多いものは、「父母」であり、比例して平均人数も多くなっている。

次いで回答数が多いのは「その他」となるが、詳細としては、上表のとおり多岐に渡っている。

(6) 運営委員会について



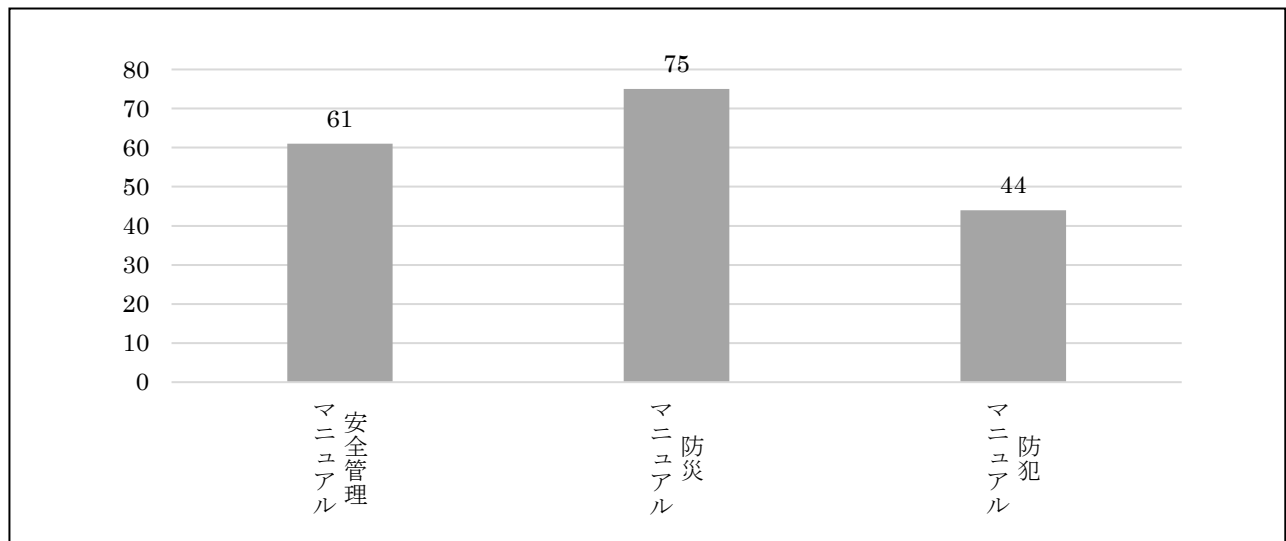
運営委員会については、60%の施設が設置しているという結果となった。構成員の人数平均は 10.7 名、開催数に至っては、平均して年 1.6 回となっている。

構成員の内訳については、上グラフのとおりであり、ほぼ「父母」「小学校教員」「民生委員／児童委員」「主任児童委員」で構成されていることが分かる。

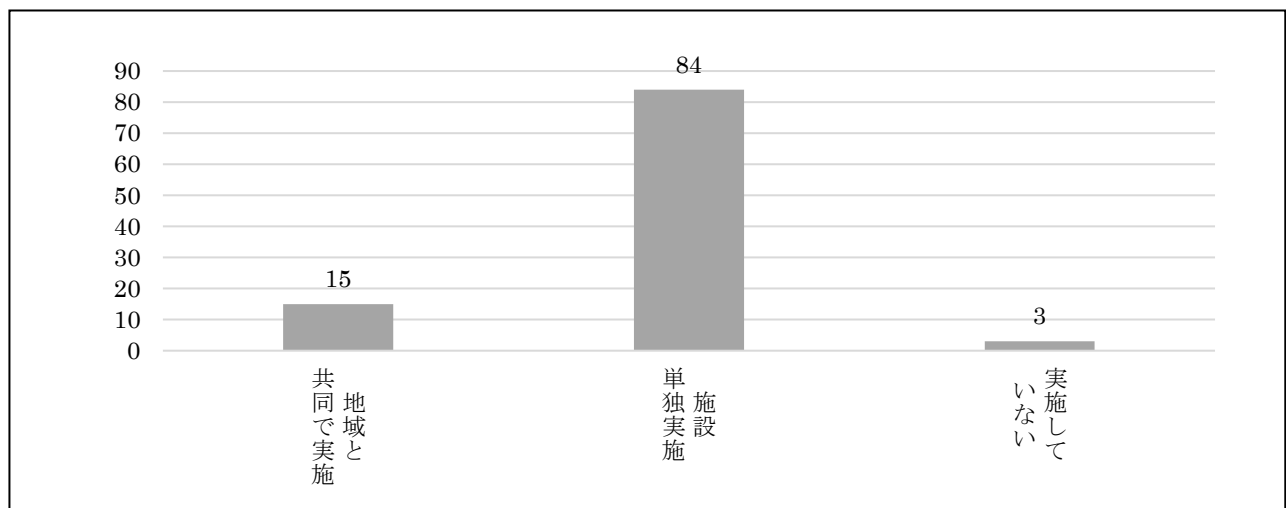
一方で、「小学生」「中学生」等、施設を利用する児童を構成員としていると回答した施設はなかった。

2 リスクマネジメントについて

(1) 実施しているマニュアル策定について（複数回答あり）



(2) 防災・防犯訓練について（複数回答あり）



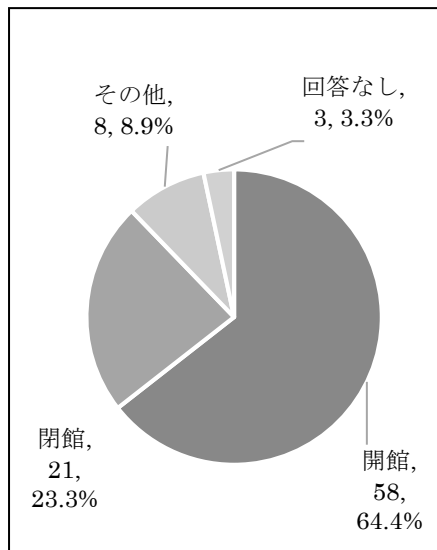
防災・防犯訓練	平均実施数	内容
地域と共同で実施	1.5 回／年	火災、防災、避難、防犯、刑務所訓練、交通安全教室 等
施設単独で実施	8.2 回／年	火災、防災（地震/津波/水害）、避難、不審者、交通安全 等

リスクマネジメントにおけるマニュアル策定について、実施している施設が最も多いものは防災マニュアルであり、次点で安全管理マニュアルという結果であった。

また、防災・防犯訓練については、多数の施設が単独で実施しているものの、地域と共同で実施している施設は 15 か所に留まっている。

3 災害や感染症対策等による小学校休校時の対応について

(1) 災害（地震・台風等）対策等による小学校休校時の対応について

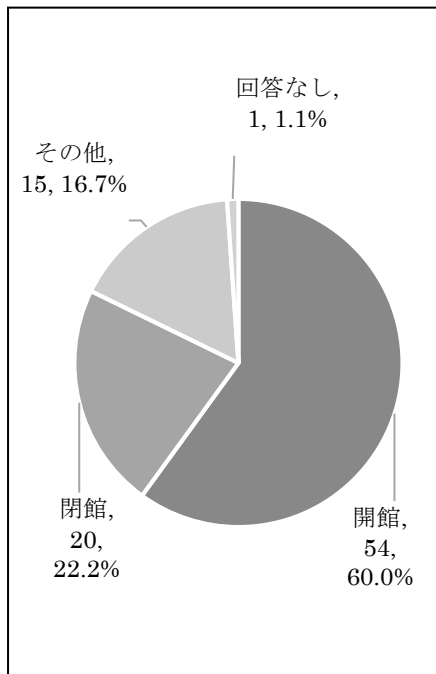


その他（具体的に）
どうしても必要な児童は利用可
小学校と同じ措置をとるが、閉館にせず、必要に応じて預かる。
学校と同じく、原則として自宅で家庭保育
行政から避難準備情報・避難指示・避難勧告が出されている時は休館
開館はしているが児童の利用はなし
状況による
父母の会と協議の上、家庭保育を依頼するが、保育が必要となる児童は保育をする。
なるべくお休みしてもらうよう協力をお願いしている。

災害対策等による小学校休校時には、「開館」と回答した施設が最も多く、64.4%を占めている。

一方、「閉館」と回答した施設は23.3%、「その他」と回答した施設は8.9%となるが、「その他」の回答の中でも、原則として利用はないものの、必要に応じて児童を預かるという回答が複数見られた。

(2) 感染症（インフルエンザ等）対策等による小学校休校時の対応について

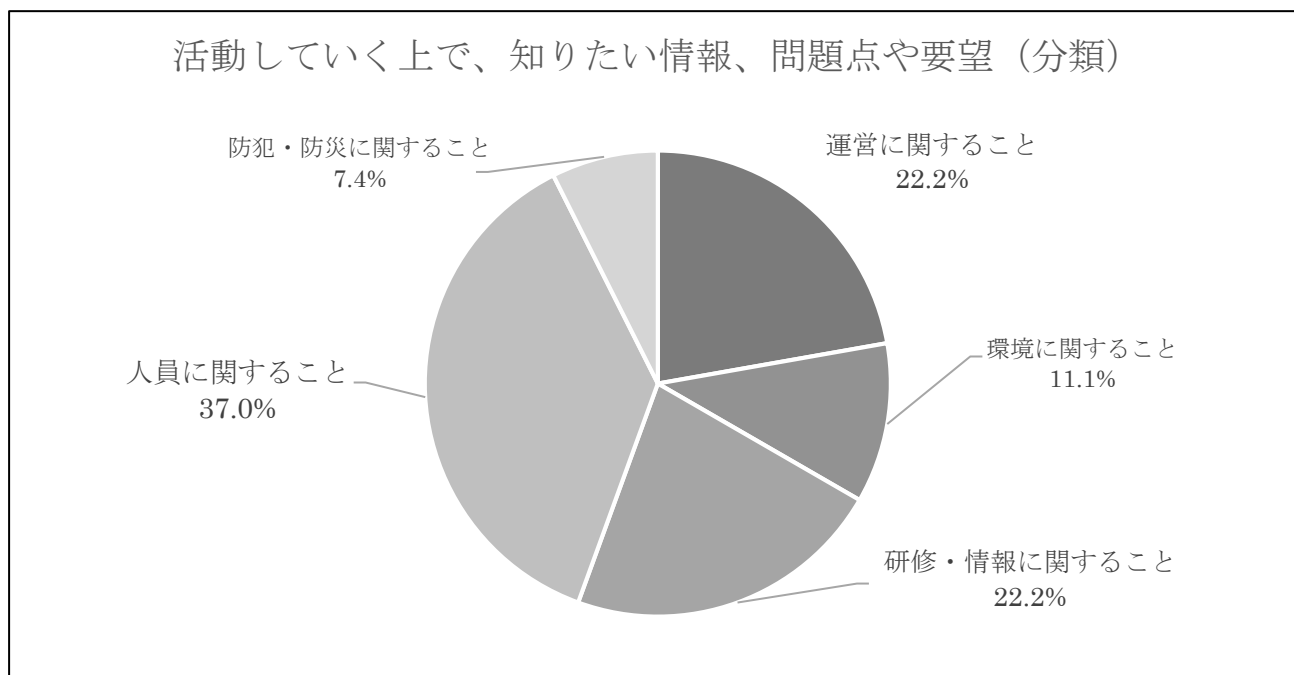


その他（具体的に）
開館はするが、閉鎖した学級、学年のみ利用制限
開館はしているが児童の利用はなし
やむをえない場合のみ受け入れ
児童の受け入れなし
学校対応に準ずる（自宅待機）
学校と相談のうえ、保護者に協力要請。
閉館の際も連絡や状況把握のため、職員は勤務。
普通保育
全学年が休校にならないければ開館
児童は原則家で家族と過ごす。
施設内の幼児の状況で判断
館に感染児がいない、又は少ない場合は通常保育。
学年、学級閉鎖のみ閉館に対応

感染症対策等における小学校休校時には、「開館」と回答した施設が最も多く、60%を占め、次いで、「閉館」と回答した施設が22.2%、「その他」と回答した施設が16.7%となる。

「その他」の回答の中でも、「児童の受け入れなし」、「閉鎖した学級、学年のみ利用制限」「普通保育」等、複数の対応が見受けられる。

4 活動していく上で、知りたい情報、問題点や要望（自由記述）



回答施設において、活動していく上で求められていること（情報・要望）について、自由記述にて回答を求めた結果、詳細が多岐に渡るため、回答をいくつかのグループに分類し、上記グラフのように割合を求めた。

その結果、最も要望として割合が大きいグループは、「人員に関すること」、次いで「運営に関すること」「研修・情報に関すること」であった。

特に、人員について、利用児童に見合った職員体制がとれないという意見が多く見られた。

また、運営については、体育・文化教室に関する負担について記述する施設が複数見られる。

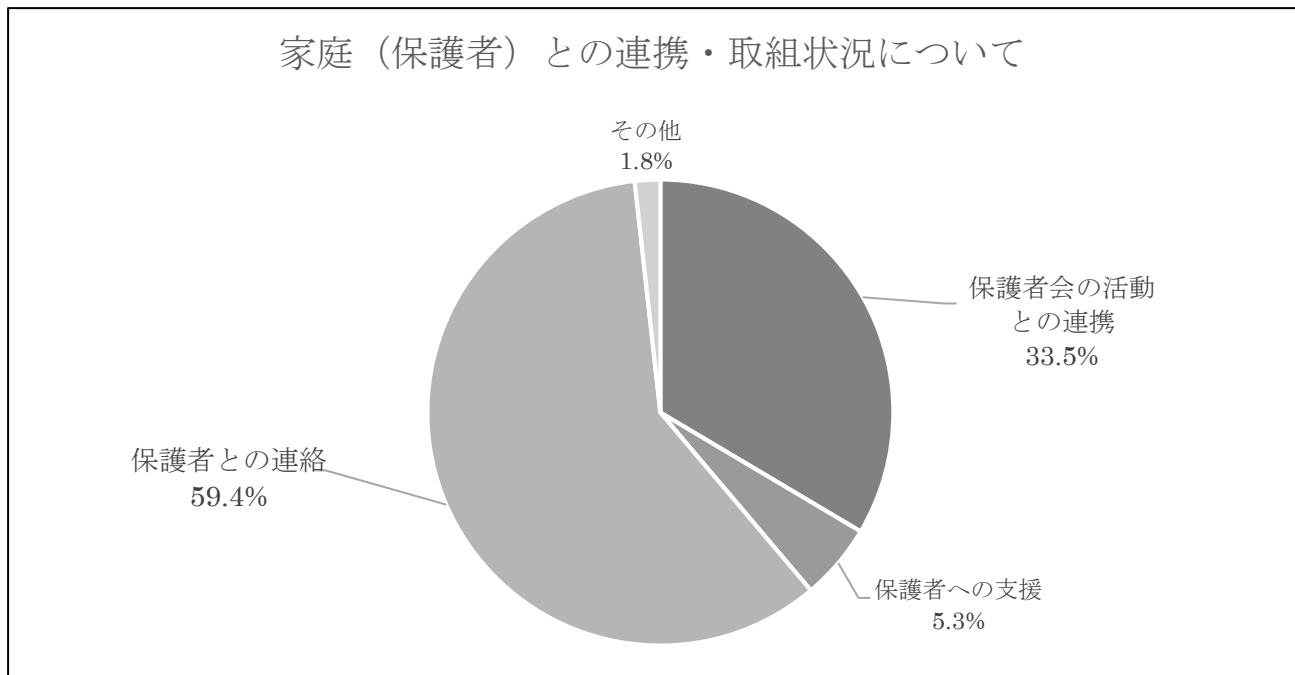
【詳細回答】

運営に関すること	回答数
体育・文化教室の年間 180 回実施は負担が大きい（指導員確保等）。	2
外部講師への謝金の予算減額により、体育・文化教室運営に苦慮している。	2
保護者会への保護者の協力が得られない場面が多く、行事運営が大変である。	1
入館の条件がないため、学童児で家庭に保護者がいても児童館を利用している家庭もある。利用が本人の意志にそぐわないこともあり、来たり来なかったりで、連絡がない時もあり、所在確認が難しいことがある。	1
環境に関すること	回答数
規格外の遊具の改善	1
近所の野良猫、飼い猫の糞尿対策に悩んでいる。	1
学校の前に児童センターがあるので、児童の利用人数が多いが、靴箱、道具を入れておくボックス数が大変少なく、不便に感じる。	1
研修・情報に関すること	回答数
支援が必要な子どもへの対応についての研修を多く企画してほしい。	1

幼児保育型児童館の他町村の情報が欲しい。	1
看護師がいないので感染症の情報が欲しい。	1
様々な行事の講師のリストを知りたい。（運動・ゲーム・音楽・マジック他）	1
他県や盛岡市以外の自治体の取り組みや、今岩手の子どもたちが抱えている問題（貧困や学力低下など）の情報が欲しい。	1
問題を抱える児童への対応（発達障害、家庭の状況）について、専門機関との情報交換の場を持ち、日々対応できるように進めたい。	1
人員に関すること	回答数
利用児童数が多く、過密状態であり、それに見合った職員体制や設備がとれない（施設が狭い等）。	5
利用児童及び支援を要する子どもの人数に対する児童厚生員の配置人数基準の基定。	1
長期学校休業日など、臨時職員を雇用しなければならないが、時給で不規則で手伝ってくれる人材がなく、6時間非正規で常勤の職員が対応する事が多く、困っている。児童厚生員の人数を増やして欲しい。臨時で手伝ってくれる人の名簿などがあれば良いと思う。	1
発達障害を疑う児童が、年々多く感じられ、配慮が必要になるが、職員の人数にも余裕がなく、他の子供達への対応が不足になってしまう日もある。また、ルールを理解できない事で、友達同士のトラブルや、他児への暴力的行為があり、対応に追われる事が多くなった。	1
受け入れ定員が明確に示されていない状況下で、利用児童数が設備（受け皿）を超えている。このため、現在の状況では指導の目が行き届かず、事故等の発生も多くなってきている。	1
個別対応の必要性のある児童の割合が増え、時には人手不足を感じる。発達障害児への対応する職員の専門的な技術、知識が必要と思われる。	1
防犯・防災に関すること	回答数
安全管理・防災・防犯等のモデルやマニュアルがあれば参考にしたい。	1
防犯マニュアルが策定されていない。防犯訓練も必要と感じている（保育園や幼稚園のように門や柵がないため、自由にセンターの庭に出入りができてしまう）。	1

5 家庭（保護者）・学校・地域・関係機関との連携・取組状況について

(1) 家庭（保護者）との連携・取組状況について



家庭との連携・取組状況について、自由記述にて得られた回答をいくつかのグループに分類し、上記グラフのように割合を求めた。

その結果、約 60%の回答が「保護者との連絡」に該当しており、その中でも、月のおたよりや連絡帳、送迎時に保護者と直接会う時間を活用して情報共有を行うという回答が多くを占めた。

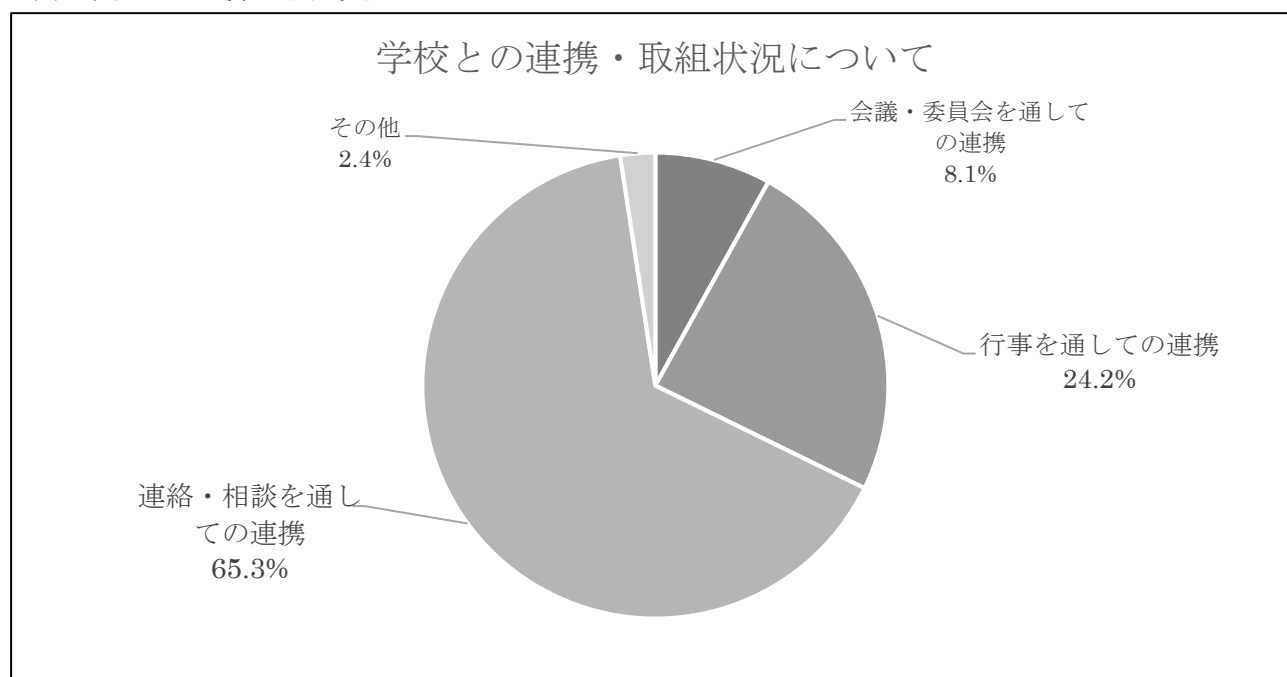
また、次いで多い回答は「保護者会の活動との連携」であり、父母会・母親クラブ等と行事協力などの連携を行うだけでなく、保護者会の組織について支援しているという回答も見られた。

【詳細回答】

保護者会の活動との連携	回答数
父母会による環境整備協力（除雪・清掃等）、行事協力（夕涼み会、運動会、畑活動や収穫体験）などの連携	17
母親クラブを組織し、定例的に会議を開催、行事等を協力して運営している。	13
運動会・生活発表会等の行事への参加、協力をいただく。	8
保育参観や親子行事（秋まつり、遠足、花壇づくり等）を開催し、施設や子どもへの理解・関心を持ってもらう。	5
父母会の役員会・総会、共済事業を行う。	5
保護者会、クラブ活動への協力にて情報提供。	3
保護者会を開催し、会議・意見交換を行う。	2
年 3 回、留守家庭保護者会を開く。うち 2 回は会食をする。	1
年 3 回の三者定例会開催（保護者会役員会、小学校校長、児童館職員）。	1
ほとんどの行事が母親クラブとの共催の形をとっているため、保護者も参加していただけるように呼びかけている。	1

保護者会を組織しているが、保護者の仕事の都合上、組織として機能化することには困難も多い。個別に連絡を取って、連携を保っているのが実状である。	1
保護者への支援	回答数
必要な家庭には子育てに対する相談や話し合い、援助を行う。	3
保護者に寄り添う支援（総会、研修会、行事の共催等）	2
利用園児の子育て交流の場の提供など	1
利用者の家庭にみんなで健全育成をしていくことを呼びかけている。	1
年数回の行事等を通して関係を深め、更に利用時の様子を保護者にお伝えしている。	1
子育て相談（発達障がい傾向等）など母親の不安を聴き助言をする。必要に応じ、学校、担当課、子育て支援センター、相談支援事業所へつなぐ。	1
保護者との連絡	回答数
おたよりの発行（毎月）により、子どもの様子などの情報提供、行事等のお知らせや家庭で取り組んでほしいことなどを載せている。	38
送迎の際の直接の連絡、コミュニケーション（その日の出来事、子どもの様子、困っていることや子育ての相談）	26
気になる児童の様子や子ども同士のトラブル等、何かあった時には逐次保護者と連絡を取っている。	12
連絡ノート（連絡帳）の活用により、家庭もしくは児童館の様子を伝える。	10
家庭での様子や児童センターでの様子は日常的に情報交換をし、子どもの健全育成を図っている。	5
父母会だより	4
連絡網作成による電話連絡	2
掲示板での連絡・情報提供	1
センターが連絡所になっている。	1
保護者にはどんな些細な事でも気になることは話していただけるようお願いしている。	1
留守家庭や直接来館児童の状況を常に把握し、遅い場合は電話確認し連絡の徹底を図っている。	1
その他	回答数
おやつの購入と供給	1
きめ細やかな出欠の確認	1
登録時は必ず面談。問題が生じたら保護者に説明している。	1

(2) 学校との連携・取組状況について



学校との連携・取組状況について、自由記述にて得られた回答をいくつかのグループに分類し、上記グラフのように割合を求めた。

その結果、**65.3%**の回答が「連絡・相談を通しての連携」に該当しており、日頃から（又は定期的に）情報共有の機会を設けているという回答が多くを占めた。

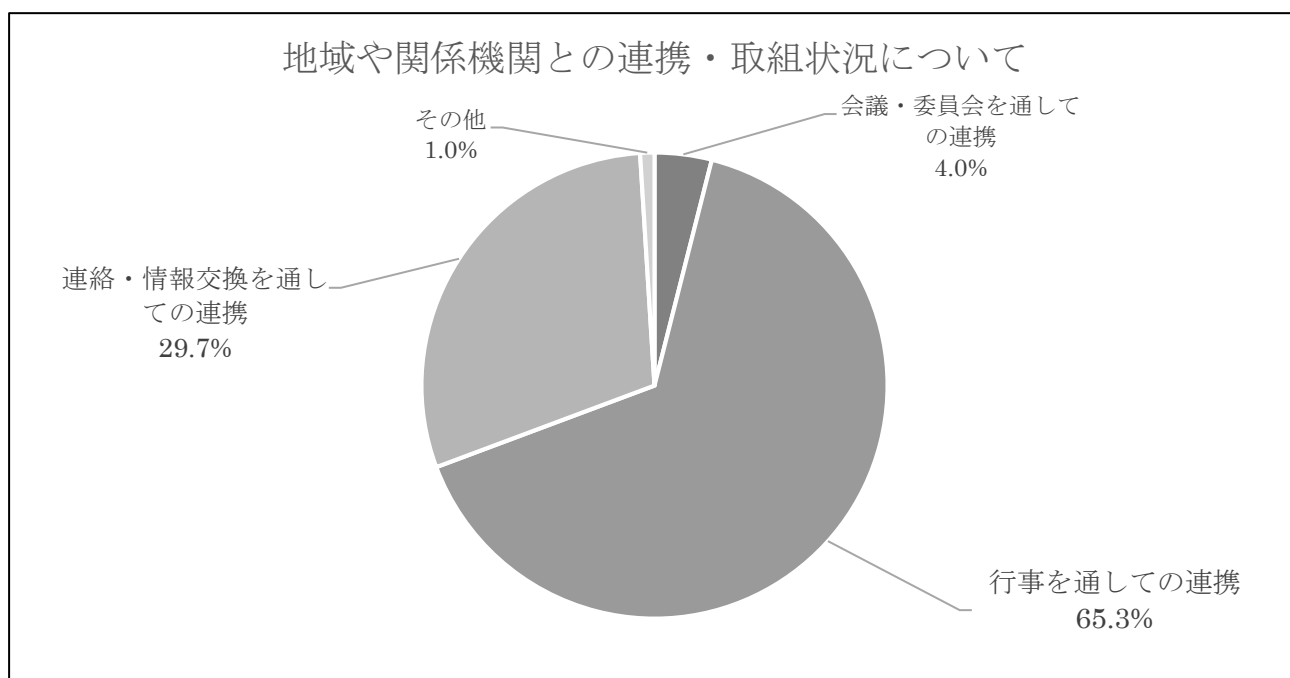
また、次いで多い回答は「行事を通しての連携」であり、学校行事に参加することで連携を行っているという回答が多く見られた。

【詳細回答】

会議・委員会を通しての連携	回答数
運営委員会の委員に委嘱し意見を聴取反映、連携を図る。	3
評議委員会等で情報交換	2
三者定例会の開催	1
連携会議(新1年生について)の開催	1
学校保健会、就学支援委員会等への参加	1
幼稚園、保育園、小学校連絡協議会への参加	1
放課後学習協議会（児童の放課後及び家庭での学習や時間の使い方等について、学校・PTA・スポ少・児童館の4者で協議）の開催	1
行事を通しての連携	回答数
学校行事（入学、卒業、授業参観、運動会、発表会等）に参加して連携を図っている。	18
各種行事への相互訪問	3
学校との交流会を開催（給食試食会、就学前の児童と1年生の交流等）	3
運動会、学習発表会等の合同開催（共催）	3
児童館（センター）の地区行事開催のときは案内し、参加いただいている。（夕涼み会、	2

運動会等)	
小学校が閉校になったが、統合した小学校の運動会、学習発表会への招待があり、卒園児の様子を見守る。保育要録を小学校へ提出する。	1
連絡・相談を通しての連携	回答数
日頃から相互に情報交換、連絡、相談をしている（おたより、電話、情報交換会、相互訪問等）。	36
定期的に情報交換会等を開催し、子ども達に関する情報を共有している。	29
情報提供（感染性、災害、児童や家庭）	2
緊急時の連絡先（館長・館長補佐）の報告。	2
毎月の行事等の確認。	1
下校が早い時等は臨時に問い合わせる。	1
非常時（災害・インフルエンザ等）の対応確認	1
保護者と話ができないときは連絡し、様子を聞く。	1
学校の先生がセンターでの様子を見に来てくださる。	1
年度始めの情報交換、センター運営委員会を行っている。	1
緊急時の保護者あて連絡メールを受信できる環境が整っている。	1
2つの小学校から児童を受け入れており、年々利用児童が増加傾向にある中、各学校との連携にも配慮している。	1
気になる子どもについて、互いに情報交換（随時）。親の様子も。子どもの対応の仕方を伝え、児童館、学校が同じ接し方をするように共通理解をはかる。	1
長期休暇期間には特に学校教員が交換で子ども達の様子と情報交換に来館している。特に気になる事案については電話等で連絡を取り合い、解決に向け対応している。	1
地域の保育園、幼稚園、児童館、小学校で構成する組織がある。この中で学校訪問などの事業が行われている。また、日常的にも特に支援の必要な子の情報交流が行われている。	1
今年度になってから、小学校の方で児童センター対応の先生を決めてくれたようで、長期休み等、センター利用の児童を集め、プリントを配り、指導くださっている。時間がある先生は、休み中にセンターを見に来てくださる。そのためかは不明だが、児童が落ち着いてきているように思う。	1
その他	回答数
学校の先生の引率（春）、巡回（長期休業）など。	1
学校の「まなびフェスト」の中から児童館においてもできる内容を実践している。	1
特になし	1

(3) 地域や関係機関との連携・取組状況について



地域や関係機関との連携・取組状況について、自由記述にて得られた回答をいくつかのグループに分類し、上記グラフのように割合を求めた。

その結果、**65.3%**の回答が「行事を通しての連携」に該当しており、地域の行事等に参加協力を行う、交流行事を開催するという回答が多くを占めた。

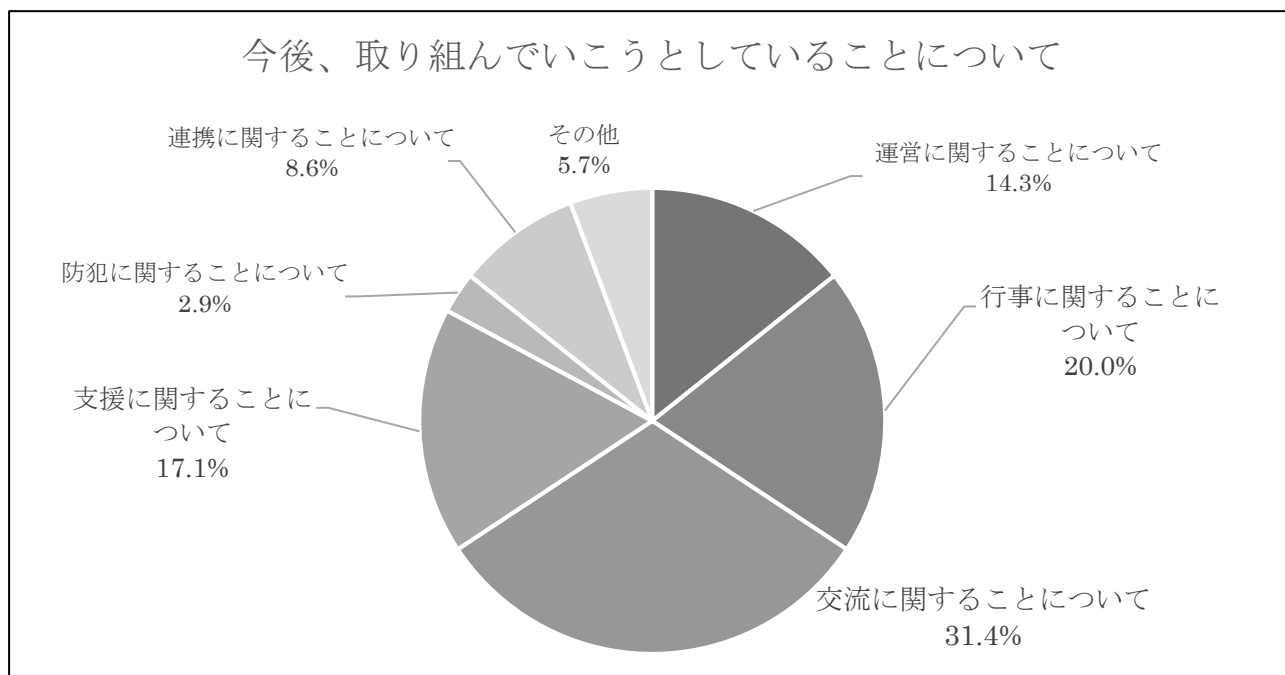
また、次いで多い回答は「連絡・情報交換を通しての連携」であり、地域の老人クラブや民生委員等との情報交換の他、運営委員会を開催することで連携を行っているという回答が見られた。

【詳細回答】

会議・委員会を通しての連携	回答数
推進会	1
月に1度会議を持っている。	1
運営委員会に区長、主任児童委員等が委員になっている。	1
町主催の要保護児童実務担当者会議への出席と報告。	1
行事を通しての連携	回答数
地域の行事等への参加協力を行う（世代間交流、郷土芸能や交通安全運動、自然の生き物観察、消防演習等）。	29
世代間交流・地域交流行事を開催する（老人クラブ、老人保健施設、敬老会、小規模多機能センター、保育園等）。	22
相互の行事を通し、交流・連携を図っている。	5
センター行事に地域の駐在や老人クラブの会員を指導者としてお願いするなど、行事を中心に連携協力をとっている。	5
老人クラブ、婦人会に行事の支援をいただいている（祖父母教室・ボランティア受け入れ）。	4

4月に「地域で子どもを育てる懇談会」を毎年開催している。	1
地域にある老人施設への訪問を行う。	1
連絡・情報交換を通しての連携	回答数
地域との交流（老人クラブ、公民館、老人福祉施設、民生委員、児童委員、教育委員、福祉推進会、子育て支援センター、スクールガード、安全支援隊、行政の家庭相談員）	7
運営委員会（有職者からの意見、三世代交流、地域との情報共有）	5
児童センター便りを発行し、常に地域や関係機関に情報を発信しているなど地域での子育てを意識した工夫をしている。	3
町内会・老人クラブとの交流や民生委員・児童委員との情報交換	2
子どもの姿や様子から気になる事柄が見られたら、担当課に連絡。	2
地区福祉推進会（老人クラブ、中学生ボランティア）との連携、協力体制が良くとられている。	2
地域の学校（2小学校、1中学校）と地域関係機関が連携して児童、生徒の健全育成に取り組む「三校連絡会」という組織がある。	1
児童館だよりの回覧をとおして連携をしている。	1
年間3回、小学校を会場に地域の関係機関が集まり情報交換をしている。	1
地域や関係機関と連携を深め、地域の児童施設として円滑な運営に努めている。	1
町内会の役員会に出席したり、主行事に参加して頂いたりし、連携を深めている。	1
地区センター長が館長とあって、地域の情報、行事等に参加しやすい環境にある。	1
地域団体(町内会、推進会、老人クラブ)の協力があり、安定した教室運営、行事開催が行われている。地域に見守られ安全安心な運営ができています。	1
地区の民生児童委員と連絡を密に取ったり、行事への参加協力をお願いし協力し合ったりしている。また、婦人サークルの方に毎月お茶会のお手伝いをお願いしている。	1
疑問に思ったり、困った時は、関係機関に相談してアドバイスを受けていたりしている。地域との関わりを心がけているので、今年度は地域の老人クラブ、食改委員、他の方々の協力を得ながら活動している。	1
その他	回答数
連携の事業や関係機関からの補助金を頂く。	1

(4) 今後、取り組んでいこうとしていることについて



今後の取組について、自由記述にて得られた回答をいくつかのグループに分類し、上記グラフのように割合を求めた。

その結果、最も回答数の割合が大きいグループは、「交流に関すること」であり、地域の老人施設、小・中学校等との交流に取り組んでいくという回答が見られた。

また、次に割合が大きいグループは「行事に関すること」であり、行事や教室の活動を充実させる、地域との交流の場になる行事を開催するなど、多様な回答が得られた。

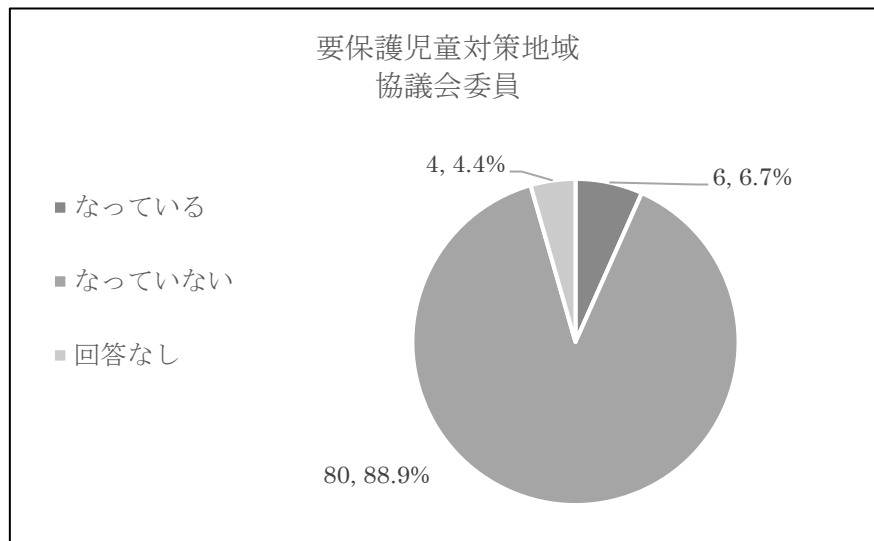
その他、「支援に関すること」については、発達障がいや貧困家庭等の個別対応が求められる児童について取り組んでいくとの回答が複数見られた。

【詳細回答】

運営に関することについて	回答数
従前の取り組みの反省、評価、改善、工夫。	2
学童育成クラブとの施設併設に関わること。	1
児童館ガイドラインに沿い、より一層児童館における活動や運営の向上に努める。	1
児童のニーズに合ったプログラムの展開	1
行事に関することについて	回答数
独自のおまつりを充実させていきたい。	1
地域との交流の場となる児童館まつりの取り組み方。	1
地域の方々や講師の先生方を広く呼んで、行事を展開していきたい。	1
地域の方々に児童館に来ていただく機会を増やすため、行事の見直しをしていきたい。	1
単発で行なっているビリヤード教室や啄木かるた講座を定期的を開催し、目標設定し、クラブ的に行ないたい。	1
行事や体育・文化教室の充実とともに、母親クラブの活性化を図る。	1

保護者がもっと気軽に児童館に入って、行事などを児童と楽しめるよう工夫したい。	1
交流に関することについて	回答数
老人施設との交流会	3
あいさつ運動の推進	1
小学生や中学生との交流の場をふやす。	1
今までと同様、世代間交流、各施設との交流、地域との関わりをもつ事業を組んでいく。	1
平成 30 年度に三施設が新しくなるので、子ども園や障害児施設との交流を図っていききたい。	1
地域に開かれた児童館として、近隣の保育園等へ児童館の空き時間を利用して開放していききたいと考えている。	1
地域センター機能を有する施設として、地域福祉の拠点施設の役割を担いつつ、尚一層使用者から親しまれる施設づくりを目指す。	1
小、中学校が閉校になり、身近な小学校との交流はなくなったが、地区の行事には参加していき、子どもたちの元気を地域の皆さんに届けていきたい。	1
地域の人達の理解と協力を得ながら、皆で児童の健全育成に取り組んでいきたい。そのためにも学校との連絡を密にして、ひとりひとりの成長を援助できればと思う。	1
支援に関することについて	回答数
市で取り組むことが決まっている「ことばの教育」に 30 年度から実施する。	1
貧困家庭についての対応。	1
母親クラブの自主的運営へのサポートの在り方。	1
個別対応の必要性のある児童について、学校ともさらに連携を深め、支援につなげていきたい。	1
発達段階や個性に応じた指導・支援の充実を図る。	1
発達障がい傾向で悩む親子へ適切な助言ができるよう職員が学ぶ。町担当課や相談支援事業所との関係を作り、親へ相談できる場所（サークル等）紹介できるようにする。	1
防犯に関することについて	回答数
警察と協力し、安全対策を強化する。（講演会や実技訓練等）	1
連携に関することについて	回答数
地域の人材のセンターへの協力と活用のあり方。	1
今以上に関連団体と連携しながら運営を図りたい。	1
母親クラブの積極的な協力をいただきながら、充実したセンター行事を実施していききたい。	1
その他	回答数
H28 年度で閉館となることで、今までの経験を次へつなげたい。	1
土曜日の利用の仕方等、把握できていない保護者がいるようなので、利用の仕方等徹底させたい。	1

(5) 要保護児童対策地域協議会委員について



要保護児童対策地域協議会委員について、構成員になっていると回答した施設は 6 施設であり、全体の 6.7%に留まっている。

なお、参加の仕方、開催頻度等については、下表のとおりとなる。

参加状況（委員・協議会の開催頻度等）
年 4 回の実務者会議に参加し、情報共有。
委員のメンバーには主任児童委員が入っているので協力が得られ易い。
協議会の会議に出席
紫波町公立施設の長の中から 1 人が委員となる。今年度は当館施設長になっている。
協議会出席（年 2 回）

Ⅲ 資料編

平成 28 年度岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会 会員施設の現況調査票

問 1. 貴施設の概要について教えてください。

(1) 下記にご記入ください。

ふりがな			
施設名			
所在地	〒 ー 市 郡		
電話番号	()	F A X	()
E m a i l	@		

(2) 開所年月日は？

昭和・平成 年 月 日

(3) 運営主体はどこですか？

(4) 運営形態はどれに該当しますか？ 該当する番号に○印をつけてください。

- 1 - 健全育成型（児童館単独運営） 2 - 児童健全混合型（児童館・児童クラブ運営）
 3 - 幼児保育型 4 - 健全育成・幼児保育混合型 5 - 大型児童館
 6 - 放課後児童クラブ（単体）
 7 - その他（ ）

(5) 実施している事業はどれですか？ 該当する番号に○印をつけてください。（複数回答あり）

- 1 - 放課後児童の育成・指導 2 - 年長児童（中学生・高校生等）の育成・指導
 3 - 幼児保育
 4 - 地域子ども・子育て支援事業 ※子ども・子育て支援法第 59 条
 (4-①利用者支援事業 4-②放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ） 4-③子ども
 を守る地域ネットワーク機能強化事業(要対協の中心的役割 4-④地域子育て支援拠点事
 業))
 5 - 放課後子ども教室等関係事業 6 - 母親クラブ等の地域組織活動の育成・助長
 7 - 健康・体力の増進 8 - 子どもの居場所づくり (8-①子ども食堂 8-②学習支援)
 9 - その他（ ）

(6) 併設する施設について、該当する番号に○印をつけてください。（複数回答あり）

- 1 - 保育所 2 - 保育所以外の児童福祉施設（具体的に ）
 3 - 高齢者福祉施設 4 - 障がい者福祉施設 5 - 幼稚園 6 - 小学校
 7 - 中学校 8 - 公民館・市民センター 9 - その他（ ）
 10 - 併設施設なし

(A) 平 日 : 時 分 ~ 時 分
(B) 土 曜 日 : 時 分 ~ 時 分
(C) 日 曜・祝 日 : 時 分 ~ 時 分
(D) 夏休み等の長期休暇 : 時 分 ~ 時 分

1 - 毎週土曜日 2 - 第（ ）土曜日 3 - 毎週日曜日 4 - 第（ ）日曜日
5 - 祝 日 6 - 年末年始（ / ～ / ） 7 - お盆休み（ / ～ / ）
8 - その他（ ）

	職 名	専任/兼任	正規/非正規	常勤/非常勤	非常勤の場合の勤務時間	取得資格
例	児童厚生員兼事務員	兼任	非正規	非常勤	①時間/日 ②日/週	児童厚生２級指導員、保育士
1						
2						
3						
4						
5						
6						

※ 『常勤』とは、事業所で定められている常勤の所定労働時間の勤務をしている者。非常勤とはそれ以外の者。

--

(2) 主な年間行事

4月		10月	
5月		11月	
6月		12月	
7月		1月	
8月		2月	
9月		3月	

問3. 貴施設の概要について教えてください。

(1) 登録児童について

(A) 対象年齢は？

_____ 歳 (_____ 年生) ～ _____ 歳 (_____ 年生)

(B) 利用形態について

1 - 登録制である。(施設の定員 _____ 名)

H 2 8 . 1 0 . 1 現在の登録者数 _____ 名

～内訳～

1. 乳 児 _____ 名 2. 幼 児 _____ 名 3. 小学生 (_____ ～ _____ 年生) _____ 名

4. 中学生 _____ 名 5. その他 (_____) _____ 名

2 - 登録が原則であるが、無登録者も利用している。

3 - 自由来館である。

(C) 1日平均利用者数は？ 今年度（7～9月）の平均でお願いします。

1. 乳 児 _____ 名 2. 幼 児 _____ 名 3. 小学生 (_____ ～ _____ 年生) _____ 名

4. 中学生 _____ 名 5. その他 (_____) _____ 名

(D) 障がい児（発達・知的・身体等の診断・手帳所持）の利用はありますか？

1 - 障がい児が登録又は自由に来館して利用 _____ 名

2 - 行事の中で利用 _____ 名

3 - 利用なし

(E) 上記の障がい児以外で、特別な配慮を要する子どもはいますか？

1 - いる _____ 名（具体的に _____ ）

2 - いない

(2) 利用者からの費用徴収について

(A) 利用料（年間合計）

1 - 無 料

2 - 有 料 _____ 円／人

3 - 登録料のみ _____ 円／人

(B) その他

※利用者個人が負担する傷害保険料等については、下記(3)に記入ください。

_____ 代(例:おやつ代等) _____ 年間約 _____ 円／人

(3) 児童館利用者用保険(共済)の加入状況について該当するものを選んでください。(複数回答あり)

(A) 傷害保険(共済)に加入 _____ 保険・共済の名称 _____

保険料負担者 1 - 施設 2 - 利用者(年間 _____ 円／人)

(B) 賠償責任保険(共済)に加入 _____ 保険・共済の名称 _____

保険料負担者 1 - 施設 2 - 利用者(年間 _____ 円／人)

(C) その他の保険(共済)に加入 _____ 保険・共済の名称 _____

保険料負担者 1 - 施設 2 - 利用者(年間 _____ 円／人)

(D) 加入していない

(4) 付帯設備について該当するものを選んでください。複数回答可。(兼用している場合は、主たる使用用途で選んでください。)

- 1 - 集会室 2 - ホール等の遊戯室 3 - 図書室 4 - 屋外広場
5 - 体育館 6 - 学習室 7 - ロビー・談話室 8 - 相談室 9 - AV 機器
10 - 工作室 11 - 保育室 12 - 静養できる部屋 13 - 手洗い場
14 - コピー機 15 - 印刷機 16 - クーラー 17 - 調理設備 18 - 冷蔵庫
19 - 専用電話 20 - 障がい者用トイレ 21 - 障がい者用スロープ
22 - 職員がインターネットやメールを利用できるパソコン
23 - その他 (_____)

(5) ボランティアについて(平成27年度の延べ人数)

1 - 高校生 _____ 名 2 - 短・大学生 _____ 名 3 - 父母 _____ 名
4 - 高齢者 _____ 名 5 - その他 (_____) _____ 名

(6) 貴施設の運営委員会についてご記入ください。

1 - あり ①構成員数 _____ 名

②構成員 a. 父母 _____ 名 b. 幼稚園教諭 _____ 名 c. 保育士 _____ 名

d. 小学校教員 _____ 名 e. 民生委員／児童委員 _____ 名

f. 主任児童委員 _____ 名 g. ボランティア _____ 名 h. 保健師 _____ 名 i.

小学生 _____ 名 j. 中学生 _____ 名 k. その他 (_____)

③運営委員会 開催数(年間) _____ 回

2 - なし

問4. リスクマネジメントについて教えてください。

(1) マニュアルの策定について実施しているものを選んでください。(複数回答あり)

1 - 安全管理マニュアル 2 - 防災マニュアル 3 - 防犯マニュアル

(2) 防災・防犯訓練について該当するものを選んでください。(複数回答あり)

1 - 地域と合同(協力を得て等)で実施している _____ 回／年 (_____ の訓練)

- 2 - 施設単独で実施している _____ 回／年 _____ (_____ の訓練)
- 3 - 実施していない

問 5. 災害や感染症対策等による小学校休校時の対応について、該当するものを選んでください。

(1) 災害（地震・台風等）対策による小学校休校時の対応について、該当するものを選んでください。

1 - 開館 2 - 閉館 3 - その他（具体的に _____ ）

(2) 感染症（インフルエンザ等）対策による小学校休校時の対応について、該当するものを選んでください。

1 - 開館 2 - 閉館 3 - その他（具体的に _____ ）

問 6. 活動していく上で、知りたい情報、問題点や要望などございましたらご記入ください。

例) 運営に関すること、職員体制、子どもへの対応等…

自由記載

問 7. 児童館又は放課後児童クラブに係るガイドラインでは、家庭（保護者）・学校・地域・関係機関との連携について触れられていますが、貴施設の他との連携状況や取り組みについて教えてください。

(1) 貴施設の取り組みについて教えてください。

① 家庭（保護者）との連携について

② 学校との連携について

③ 地域や関係機関との連携について

④ 今後、取り組んでいこうとしていることについて

(2) 貴施設は、要保護児童対策地域協議会の委員になっていますか？

1 - なっている（どのように参加していますか？委員、協議会の開催頻度等…）

2 - なっていない

ご協力ありがとうございました。

平成 28 年度岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会
会員施設現況調査結果

発 行：岩手県社会福祉協議会
岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会

事務局：〒020-0831
盛岡市三本柳第 8 地割 1 番 3 ふれあいランド岩手内
岩手県社会福祉協議会福祉経営支援部
(電話) 0 1 9 - 6 3 7 - 4 4 6 6
